

二〇一九年七月二日

ハイカーの帽子に憩ふ銀やんま
館涼し案内嬢の声も又

智恵子
菜々

二〇一九年七月一日

見て触れて楽しむ科学館涼し
尾根の道涼しき風の吹き上げ来

はく子
愛正

二〇一九年七月一日

蚊遣り焚きテラスにはこぶ夕餉かな
泰山木かかげし花の高さかな

なつき
ぼんこ

二〇一九年七月九日

目力に生命の名残り蝉の殻
川床料理綺羅の南座真向かひに
平凡な暮らしが宝合歡の花

やよい
満天
宏虎

二〇一九年七月八日

三輪山の天辺隠す梅雨の雲
初蝉の乾きつつあるみどり羽
寺田屋の今も商ふ軒すだれ
草律より分け出でし梅雨きのこ

明日香
宏虎
菜々
やよい

二〇一九年七月七日

曙の靈山映す代田かな
梅雨雲に呑みこまれたる機影かな
風鈴の上機嫌なる峠茶屋

さつき
ぼんこ
宏虎

鴨川の兩岸賑はふ夕涼み

満天

顔寄せて頷けてもらへり団扇風
夏山の今歩きしは雲の中

なつき
智恵子

二〇一九年七月六日

洋館の開かずの窓や立葵
万緑の中に火床や東山
瑞垣に添ふてほつほつ夏の萩
牛蛙古墳の池を震はせて
木洩れ日に光放ちて苔の露

たか子
明日香
菜々
やよい
こすもす

毎日句会みのる選・二〇一九年七月一四日